

# 国土地理院の沿革 (通史)

明治

大正・昭和・平成

四四(一九一) 25m インバル基線尺を沖繩基線の測量において初めて採用

四三(一九一〇) 二万五千分一地形図の作成を開始

三五(一九〇二) 一等三角測量を北海道で開始

三三(一九〇〇) 二等三角測量に下方盤石の埋設を開始

三一(八九八) 日本帝国第17帝國統計年鑑に府県別面積を掲載

二九(八九六) 標石を小豆島産花崗岩及び岡崎産花崗岩に統一し、一括調達に変更

二八(八九五) 濃尾地震に伴う復旧測量開始

二七(八九四) 油壺験潮場を開設

二五(八九二) 細島験潮場を開設

二四(八九一) 東京麻布に経緯度原点を設置

二四(八九一) 濃尾地震発生

二三(八九〇) 陸地測量標条令、同施行規則を公布

二二(八八八) 征判地図用紙の規格を制定

二二(八八八) 初代部長 小菅智淵 就任

二二(八八八) 測量局を廃し、参謀本部陸地測量部を創設

二二(八八八) 陸地測量部条令を公布

一七(八八四) 内務省の大三角測量事業を参謀本部に統合

一六(八八三) 参謀本部条令を改正し、測量局を設け、地図課、測量課を廃し、

一一(八七九) 一等三角測量、一等水準測量を開始

一一(八七九) 二万分一「迅速測図」の作成を開始

一一(八七九) 全国測量の基本計画決定

一〇(八七七) 参謀局を廃し、参謀本部地図課、測量課となる

八(八七五) 地理院が地理局となる

七(八七四) 内務省は大三角測量事業を開始

七(八七四) 内務省に地理寮を設置

六(八七三) 工部省測量司は内務省地理寮に移管

五(八七二) 東京府下で三角測量を初めて実施

四(八七一) (国土測量と地図作成にあたる)

三(八七〇) 工部省に測量司を設置

三(八七〇) 兵部省に地理司を設置

二(八六九) 兵部省は兵部省に改称

二(八六九) (地誌の編さん)と地理資料の収集にあたる

二(八六九) 兵部省に庶務司戸籍地図掛を設置

## 陸地測量部



日本水準原点

編輯二〇万分一図の編集に着手  
三角測量課、地形測量課、地図課の3課を設置  
参謀本部条令を改正し、測量局を設け、地図課、測量課を廃し、  
一等三角測量、一等水準測量を開始  
二万分一「迅速測図」の作成を開始  
全国測量の基本計画決定  
参謀局を廃し、参謀本部地図課、測量課となる

第六局を再び参謀局と改称し、第五課、第六課を設置  
参謀局間謀隊を第六局測量課に改称  
伊能図の編さん、銅版による「大日本全図」を刊行

兵部省を廃し、間謀隊を陸軍省参謀局に残置  
地理調査と地図編集を担当  
兵部省陸軍参謀局に間謀隊を設置

兵部省・陸軍省

三〇(二〇一八) ビックデータを利用し登山道を修正した地形図を初めて地理院地図で公開

二七(二〇一五) 電子基準点「東京千代田」を日本水準原点構に新設

二六(二〇一四) 「地図と測量の科学館」入館者数八〇万人突破

二六(二〇一四) 電子地形図25000及び二万五千分一地形図の領土全域の整備が完了

二三(二〇一三) 東北地方太平洋沖地震の影響により日本経緯度原点及び日本水準原点の原点数値を改正

一九(二〇〇七) 地理空間情報活用推進基本法公布

一八(二〇〇六) 新しい地図記号を初めて公募により決定(風車、老人ホーム)

新規格二万五千分一地形図を刊行

電子国土Webシステムの運用を開始 ※現在の地理院地図

数値地図25000(空間データ基盤)の全国整備が完了

一五(二〇〇三) 電子基準点網の全国整備が完了

一四(二〇〇二) 測量法改正(世界測地系に移行)

災害対策基本法に基づく指定行政機関となる

一三(二〇〇一) 国土交通省発足、国土地理院は同省の特別の機関となる

一一(九九九) 数値地図50mメッシュ(標高)、数値地図25000(地図画像)の全国整備が完了

一〇(九九八) つばしVBI局の観測を開始。地球地図の整備を開始。宇宙測地館が完成

八(九九六) 「地図と測量の科学館」オープン。都市圏活断層図の作成を開始

六(九九四) 全国GPS連続観測施設の利用を開始

五(九九三) フロップイディスクによる数値地図の刊行を開始

三(九九二) 水準原点設置一〇〇周年(記念切手発行)

元(九九一) 測量の日「6月3日」を制定

五九(一九八四) 国土地理院は建設省の特別の機関となる

五八(一九八三) 二万五千分一地形図の全国整備が完了

五四(一九七七) 東京目黒区から谷田部町(現在のつばし)に移転

五二(一九七九) ナショナルアトラス「日本国勢地図帳」を刊行

四二(一九六七) 一等三角測量の改測が完了

三五(一九六〇) 地理調査所を国土地理院に名称変更、初代院長 武藤勝彦 就任

三三(一九五八) 千葉県千葉市から東京目黒区の庁舎へ移転

三一(一九五六) 第一次南極観測に参加

三〇(一九五五) 地図用紙(証)に透入(すかし入れ)を開始

二七(一九五二) 全国重力測量を実施

二六(一九五一) 地理調査所の支所を北海道他一県に設置

二五(一九五〇) 二万五千分一地形図の作成を再開。第一回 測量士・測量士補試験実施

二四(一九四九) 測量法 公布。全国地磁気測量を開始

二三(一九四八) 建設省発足。地理調査所は同省の付属機関となる

二二(一九四七) 一等三角測量改測を開始、キャスリン台風の災害調査実施(災害地理調査の端緒)

二二(一九四六) 長野県松本市郊外から千葉県千葉市へ移転

陸地測量部を廃止。内務省付属機関として地理調査所発足、初代所長 岩沢忠恭 就任

地理調査所

二〇(一九四五) 第二次疎開 杉並区和泉の明治大学予科校舎から長野県松本市郊外へ(空襲により東京三宅坂庁舎焼失)

一九(一九四四) 第一次疎開 東京三宅坂から杉並区和泉の明治大学予科校舎へ

一八(一九四三) 「陸地測量の歌」堀内敬三 作詞作曲完成

一三(一九三八) 二万五千分一地形図の作成中断

三(一九二八) 関東地震の影響により水準原点数値を二四、四一四〇mと改正

一三(一九二四) 関東震災地復旧測量を開始。全国五万分一地形図がほぼ完成(陸測の五万)

一一(一九二三) 関東地震 発生

四(一九一五) 一等三角測量現地作業が完了(※北方四島及び沖繩含む。)



地図記号「風車」と「老人ホーム」



地図と測量の科学館



電子基準点「東京千代田」



三角測量のため登山(昭和初期)



目黒庁舎